

ずんぐりと花粉柱や玉椿 菊の葉の上へ上へと花はまだ

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、つくしんぼ 台風に咲く朝顔のありにけり

発泡スチロールを運ぶ花筏 火吹竹火は吹かねども先が焦げ

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

通快のドアに白シャツ押し付けて

三階へ隠し階段夏館

閉ぢ込めし浮輪の空気海見えす

一寸だけ使ふドアノブ新樹の夜

空といふ大きな器いわし雲

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

秋晴の天下すなはち日本晴

蜻蛉の交みて飛べる日本晴

白と黄の花粉柱や玉椿

一寸だけ廻すドアノブ星月夜

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、つくしんぼ

蜻蛉の交みて飛べる日本晴

発泡スチロールを運ぶ花筏

菊は葉を広げ伸びゆく花はまだ

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

台風に咲く朝顔のありにけり

通快のドアに白シャツ押し付けて

火吹竹火は吹かねども先が焦げ

屋根裏へ隠し階段夏館

閉ぢ込めし浮輪の空気海を見せず

空といふ大きな器いわし雲

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

天高く翩翩たるや日章旗

秋晴の天上天下日本晴

その土地にその土地の空いわし雲

白と黄の花粉柱や玉椿 一寸だけ廻すドアノブ星祭

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、つくしんぼ 蜻蛉の交みて飛べる日本晴

発泡スチロールを入れて花筏 台風に咲く朝顔のありにけり

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

通快のドアに白シャツ押し付けて

屋根裏へ隠し階段夏館

海に浮く浮輪の中の空気かな

秋澄みて天上天下日本晴

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

天高く翩翩たるや日章旗

空といふ大きな器いわし雲

この町に我らがための翺雲

2023・6・1【俳壇賞2023 A 全62】選15句

12行3段組14ポ BIZ 三明朝 太 2023年9月1日 09:17 へ1 桐10

白と黄の花粉柱や玉椿 一寸だけ廻すドアノブ星祭

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、つくしんぼ 蜻蛉の交みて飛べる日本晴

発泡スチロールも入れて花筏 台風に咲く朝顔のありにけり

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

通快のドアに白シャツ押し付けて

屋根裏へ隠し階段夏館

海に浮く浮輪の中の空気かな

秋なれや天上天下日本晴

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

天高く翩翩たるや日章旗

空といふ大きな器いわし雲

わが町にわが町の空いわし雲

白と黄の花粉柱や玉椿

わが町にわが町の空いわし雲

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、つくしんぼ

一寸だけ廻すドアノブ星祭

発泡スチロールも入れて花筏

蜻蛉の交みて飛べる日本晴

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

台風に咲く朝顔のありにけり

通快のドアに白シャツ押し付けられ

屋根裏へ隠し階段夏館

海に浮く浮輪の中の空気かな

秋なれや日本の空の日本晴

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

天高く我らが国の日章旗

空といふ大きな器いわし雲

この町に住んで楽しき翳雲

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、つくしんぼ

蜻蛉の交みて飛べる日本晴

白と黄の花粉柱や玉椿

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

発泡スチロールも入れて花筏

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

屋根裏へ隠し階段夏館

通快のドアに白シャツ押し付けられ

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

海に浮く浮輪の中の空気圧

一寸だけ廻すドアノブ星祭

日本晴秋の天下となりにつけり

空といふ大きな器いわし雲

台風に咲く朝顔のありにけり

何処までも実りの秋の日本晴

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、つくしんぼ

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

白と黄の花粉柱や玉椿

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

発泡スチロールも入れて花筏

屋根裏へ隠し階段夏館

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

通快のドアに白シャツ押し付けられ

海に浮く浮輪の中の空気圧

一寸だけ廻すドアノブ星祭

日本晴天下の秋となりにけり

空といふ大きな器いわし雲

台風に咲く朝顔のありにけり

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

春の草摘んでお菓子屋さんごっこ

日本晴天下の秋となりにけり

白と黄の花粉柱や玉椿

空といふ大きな器いわし雲

発泡スチロールも入れて花筏

澄む水の如き老女の句集なり

桜貝器量悪しきは捨つべきや

台風に咲く朝顔のありにけり

屋根裏へ隠し階段夏館

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

実を取られ玉蜀黍の枯れ軽し

通快のドアに白シャツ押し付けられ

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

海に浮く浮輪の中の空気圧

秋の夜の夜間飛行のパイロット

ご注目くださいと薔薇咲き初むる

青空の青を違へて秋近し

一寸だけ廻すドアノブ星祭



白と黄の花粉柱や玉椿

空といふ大きな器いわし雲

発泡スチロールも入れて花筏

澄む水の如き老女の句集なり

桜貝器量悪しきは捨つべきや

・台風に咲く朝顔のありにけり

屋根裏へ隠し階段夏館

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

実を取られ玉蜀黍の枯れ軽し

通快のドアに白シャツ押し付けられ

実を取られ玉蜀黍の枯れ始む

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

雨の日の特に寂しき海の家

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

海に浮く浮輪の中の空気圧

青空の青を違へて秋深し

ご注目くださいと薔薇咲き初むる

秋の夜の夜間飛行のパイロット

一寸だけ廻すドアノブ銀河の夜

晴れ渡る天下の秋となりにけり

白と黄の雄蕊を太く玉椿

澄む水の如き老女の句集なり

発泡スチロールも入れて花筏

・ 台風に咲く朝顔のありにけり

桜貝器量悪しきは捨つべきや

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

屋根裏へ隠し階段夏館

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

通快のドアに白シャツ押し付けられ

青空の青を違へて秋深し

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

海に浮く浮輪の中の空気圧

雨の日の海は寂しや海の家

ご注目くださいと薔薇咲き初むる

晴れ渡る天下の秋となりにけり

土地土地にその土地の空いわし雲

白と黄の蕊を太々玉椿

雲ひとつ天下の秋に浮かせて

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

土地土地にその土地の空いわし雲

発泡スチロールも入れて花筏

澄む水の如き老女の匂なりけり

桜貝器量悪しきは捨つべきや

台風に咲く朝顔のありにけり

屋根裏へ隠し階段夏館

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

ほたるは光りががんばは踊るなり

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

通快のドアに白シャツ押し付けられ

青空の青を違へて秋深し

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

海に浮く浮輪の中の空気圧

雨の日の海は寂しや海の家

注目くださいと薔薇咲き初むる

白と黄の太き柱を玉椿

ご注目くださいと薔薇咲き初むる

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

発泡スチロールも入れて花筏

土地土地にその土地の空いわし雲

桜貝器量悪しきは捨つべきや

澄む水の如き老女の句なりけり

屋根裏へ隠し階段夏館

台風に咲く朝顔のありにけり

ほたるは光りががんばは踊るなり

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

通快のドアに白シャツ押し付けられ

次の世は赤を極めし毒菌

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

推敲を重ね重ねし雲の峰

青空の青を違へて秋深し

海に浮く浮輪の中の空気圧

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

雨の日の海は寂しや海の家

白と黄の太き柱を玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

水色の剥げたる氷掻き機かな

青空の青を違へて秋深し

発泡スチロールも乗せて花筏

雨の日の海は寂しや海の家

桜貝器量悪しきは捨つべきや

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

屋根裏へ隠し階段夏館

土地土地にその土地の空いわし雲

ほたるは光りががんばは踊るなり

澄む水の如き老女の匂なりけり

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

流星を迎へ撃つべく富士の山

通快のドアに白シャツ押し付けられ

台風に咲く朝顔のありにけり

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

まいまいをくるり一物仕立かな

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

ご注目くださいと薔薇咲き初むる

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

ビルの上に伸し上りたる雲の峰

次の世は赤を極めし毒菌

白と黄の太き柱を玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

水色の剥げたる氷掻き機かな

青空の青を違へて秋深し

発泡スチロールの白き花筏

台風に咲く朝顔のありにけり

桜貝器量悪しきは捨つべきや

雨の日の海は寂しや海の家

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

土地土地にその土地の空いわし雲

ほたるは光りががんばは踊るなり

澄む水の如き老女の句なりけり

まいまいをくるり一物仕立かな

流星を迎へ撃つべく富士の山

チャールハンを宙に舞はせて夏樂し

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

ビルの上ののし上りたる雲の峰

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

屋根裏へ隠し階段夏館

次の世は赤を極めし毒菌

白と黄の太き柱を玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

次の世は赤を極めし毒菌

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

水色の剥げたる氷掻き機かな

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

発泡スチロールも混じる花筏

雨の日の海は寂しや海の家

青空の青を違へて秋深し

桜貝器量悪しきは捨つべきや

台風に咲く朝顔のありにけり

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

土地土地にその土地の空いわし雲

ほたるは光りががんばは踊るなり

澄む水の如き老女の句なりけり

まいまいをくるり一物仕立かな

しづかなる雨のおもたき九月かな

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

流星を迎へ撃つべく富士の山

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

マンションにのし上りたる雲の峰

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

屋根裏へ隠し階段夏館

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

白と黄の太き柱を玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

次の世は赤を極めし毒菌

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

水色の剥げたる氷掻き機かな

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

発泡スチロール混入花筏

雨の日の海は寂しや海の家

青空の青を違へて秋深し

桜貝器量悪しきは捨つべきや

台風に咲く朝顔のありにけり

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

雲ひとつつ天下の秋に浮ばせて

アテンション・プリーズと薔薇咲き始む

土地土地にその土地の空いわし雲

ほたるは光りががんばは踊るなり

澄む水の如き老女の句なりけり

まいまいをくるり一物仕立かな

二三日雨の重たき九月かな

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

流星を迎へ撃つべく富士の山

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

推敲の果ての巨大な雲の峰

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

屋根裏へ隠し階段夏館

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ



ふりかけと同じ大きさ種子袋 屋根裏へ隠し階段夏館 青空の青を違へて秋深し

白と黄の太き柱を玉椿 海に浮く浮輪の中の空気圧

風船に連れ去られたる長き紐 水色の剥げたる氷掻き機かな

花の雨レントゲン車に社員消ゆ 雨の日の海は寂しや海の家

心臓を励ますごとく囁れり 雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

発泡スチロール混入花筏 澄む水の如き老女の匂なりけり

桜貝器量悪しきは捨つべきや 流星を迎へ撃つべく富士の山

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ 一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

まいまいをくるり一物仕立かな 蜻蛉の交みて飛べる秋津島

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し 栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ 次の世は赤を極めし毒菌

推敲の果ての巨大な雲の峰 湯あがりのやうなコロッケ秋の暮

ふりかけと同じ大きさ種子袋

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

次の世は赤を極めし毒菌

白と黄の太き柱を玉椿

屋根裏へ隠し階段夏館

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

エレベーターで我家へ帰るシクラメン

海に浮く浮輪の中の空気圧

青空の青を違へて秋深し

風船に連れ去られたる長き紐

水色の剥げたる氷掻き機かな

末枯の庭の濃き影薄き影

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

雨の日の海は寂しや海の家

朝顔の種採ることも五十年

心臓を励ますごとく囁れり

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

発泡スチロール混入花筏

澄む水の如き老女の匂なりけり

降る雪に雪町書店はや閉まる

桜貝器量悪しきは捨つべきや

流星を迎へ撃つべく富士の山

プップップポーンと時報寒の晴

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

まいまいをくるり一物仕立かな

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

栗鼠忙し両手づかみに木の美食ふ

推敲の果ての巨大な雲の峰

老人の国日本の菊日和

ふりかけと同じ大きさ種子袋

屋根裏へ隠し階段夏館

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

白と黄の太き柱を玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

青空の青を違へて秋深し

エレベーターで我家へ上るシクラメン

水色の剥げたる氷掻き機かな

末枯の庭の濃き影薄き影

風船に連れ去られたる長き紐

雨の日の海は寂しや海の家

朝顔の種採ることも五十年

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

プツプツポーンと秋晴限りなし

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

発泡スチロール混入花筏

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

降る雪に雪町書店はや閉まる

桜貝器量悪しきは捨つべきや

澄む水の如き老女の句なりけり

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

流星を迎へ撃つべく富士の山

まいまいをくるり一物仕立かな

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

推敲の果ての巨大な雲の峰

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

次の世は赤を極めし毒菌

ふりかけと同じサイズの種子袋

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

虫偏に非ざる虫もすいつちよん

白と黄の太き柱を玉椿

屋根裏へ隠し階段夏館

栗鼠忙し両手づかみに木の実食ふ

エレベーターで我家へ上るシクラメン

海に浮く浮輪の中の空気圧

次の世は赤を極めし毒菌

風船に連れ去られたる長き紐

水色の剥げたる氷掻き機かな

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

雨の日の海は寂しや海の家

青空の青を違へて秋深し

発泡スチロール混入花筏

プツプツポーン秋晴限りなし

紫の煙紅葉を焚きたれば

桜貝器量悪しきは捨つべきや

雲ひとつ天下の秋に浮ばせて

末枯の庭の濃き影薄き影

仔猫の句詠みたる虚子の戦時かな

澄む水の如き老女の句なりけり

朝顔の種採ることも五十年

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

朝顔のシュツと色なき一部分

いざとなれば焚くべき書あり冬籠

まいまいをくるり一物仕立かな

流星を迎へ撃つべく富士の山

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

降る雪に雪町書店はや閉まる

推敲の果ての巨大な雲の峰

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

ふりかけと同じサイズの種子袋

通勤電車ドアに白シャツ押し付けられ

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

白と黄の太き柱を玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

紫の煙紅葉を焚きたれば

エレベーターで我家へ上るシクラメン

水色の剥げたる氷掻き機かな

朝顔の種採ることも五十年

風船に連れ去られたる長き紐

雨の日の海は寂しや海の家

いざとなれば焚くべき書あり冬籠

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

プツプツプツポーン秋晴限りなし

枯れてゆくものの風音聞いてやろ

発泡スチロール混入花筏

澄む水の如き老女の句なりけり

降る雪に雪町書店はや閉まる

戦時下の虚子が詠みたる仔猫の句

朝顔にシュツと色なき部分あり

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

流星を迎へ撃つべく富士の山

まいまいをくるり一物仕立かな

一寸だけ廻るドアノブ銀河の夜

濁点の多きがの字よががんぼよ

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

虫偏に非ざる虫もすいつちよん

推敲の果ての巨大な雲の峰

次の世は赤を極めし毒菌

あたたかや子の覚えたるあいうえお

推敲の果ての巨大な雲の峰

いざとなれば焚くべき書あり冬籠

ふりかけと同じサイズの種子袋

海に浮く浮輪の中の空気圧

降る雪に雪町書店はや閉まる

白と黄の太き柱も玉椿

水色の剥げたる氷掻き機かな

書初のふじのふの字のむつかしき

エレベーターで我家へ帰るシクラメン

雨の日の海は寂しや海の家

風船に連れ去られたる長き紐

プツプツプツポーン秋晴限りなし

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

朝顔のシュツと色なき部分かな

発泡スチロール混入花筏

流星を迎へ撃つべく富士の山

戦時下の虚子の作りし仔猫の句

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

虫偏に非ざる虫もすいつちよん

まいまいをくるり一物仕立かな

次の世は赤を極めし毒菌

濁点の多きがの字よががんぼよ

湯あがりのやうなコロツケ秋の暮

チャーハンを宙に舞はせて夏楽し

朝顔の種採ることも五十年

あたたかや声を大きくあいうえお

推敲の果ての巨大な雲の峰

朝顔の種採ることも五十年

ふりかけと同じサイズの種子袋

曝書する縁側にその老人も

住職とこんな処で近松忌

白と黄の太き柱も玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

いざとなれば焚くべき書あり冬籠

エレベーターで我家へ帰るシクラメン

雨の日の海は寂しや海の家

降る雪に雪町書店はや閉まる

風船に連れ去られたる長き紐

プツプツプツポーン秋晴限りなし

書初のふじのふの字のむつかしき

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

朝顔のシュツと色なき部分かな

発泡スチロール混入花筏

流星を迎へ撃つべく富士の山

戦時下の虚子の作りし仔猫の句

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

虫偏に非ざる虫もすいつちよん

まいまいをくるり一物仕立かな

次の世は赤を極めし毒菌

濁点の多きがの字よががんぼよ

駅弁をデパートで買ふ菊日和

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

たくさんの夕食のある秋の暮

あたたかや大きな声であいうえお

推敲の果ての巨大な雲の峰

たくさんの夕食のある秋の暮

ふりかけと同じサイズの種子袋

曝書する縁側にその老人も

我也また他人の空似近松忌

白と黄の太き柱の玉椿

海に浮く浮輪の中の空気圧

降る雪に雪町書店早仕舞

エレベーターで我家へ帰るシクラメン

雨の日の海は寂しや海の家

いざとなれば焚くべき書あり冬籠

風船に連れ去られたる長き紐

プツプツプツポーン秋晴限りなし

書初のふじのふの字のむつかしき

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

朝顔のシュツと色なき部分かな

発泡スチロール混入花筏

流星を迎へ撃つべく富士の山

戦時下の虚子の作りし仔猫の句

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

虫偏に非ざる虫もすいつちよん

まいまいをくるり一物仕立かな

次の世は赤を極めし毒菌

濁点の多きがの字よががんぼよ

デパートの駅弁祭り菊日和

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

朝顔の種採ることも五十年



あたたかや口を大きくあいうえお

チャーハンを宙に舞はせて夏樂し

朝顔の種採ることも五十年

ふりかけと同じサイズの種子袋

推敲の果ての巨大な雲の峰

たくさんの夕食のある秋の暮

白と黄の太き柱の玉椿

曝書する縁側にその老人も

我もまた誰かの空似近松忌

エレベーターで我家へ帰るシクラメン

海に浮く浮輪の中の空気圧

降る雪に雪町書店灯を点す

風船に連れ去られたる長き紐

雨の日の海は寂しや海の家

いざとなれば焚くべき書あり冬籠

花の雨レントゲン車に社員消ゆ

プツプツプツポーン秋晴限りなし

書初のふじのふの字のむつかしき

発泡スチロール混入花筏

朝顔のシュツと色なき部分かな

戦時下の虚子の作りし仔猫の句

流星を迎へ撃つべく富士の山

んぼと言ふ田んぼ、赤んぼ、さくらんぼ

蜻蛉の交みて飛べる秋津島

まいまいをくるり一物仕立かな

虫偏に非ざる虫もすいつちよん

蟬の穴雨水を貯め乾かざる

次の世は赤を極めし毒菌

濁点の多きがの字よががんぼよ

デパートの駅弁祭り菊日和